

平成31年度から令和3年度までの実施施策に係る政策評価書

(防衛省31～3-①)

施策名	訓練・演習の実施					
施策の概要	自衛隊の戦術技量の維持・向上等のため、必要に応じて、関係機関、地方公共団体や民間部門とも連携しながら、より実践的で効果的かつ計画的な訓練・演習を実施するとともに国内の演習場等や国外の良好な訓練環境の整備・活用を促進する。					
達成すべき目標	①各種事態発生時に効果的に対処し、抑止力の実効性を高めるため、演習場等周辺環境を十分把握し、安全確保に万全を期しつつ、自衛隊の統合訓練・演習や日米の共同訓練・演習を計画的かつ目に見える形で実施するとともに、これらの訓練・演習の教訓等を踏まえ、事態に対処するための各種計画を不断に検証し、見直しを実施 ②各種事態に国として一体的に対処し得るよう、警察、消防、海上保安庁等の関係機関との連携を強化 ③国民保護を含め、自衛隊の統合訓練・演習や日米間での共同訓練・演習の機会を、自衛隊の実運用のための計画等の検討・検証のみならず、総合的な課題の検討・検証の場としても積極的に活用 ④国内の演習場等の整備・活用を促進し、効果的な訓練・演習を実施。併せて国外の良好な訓練環境の活用を促進					
施策の予算額・執行額等	区分	平成31年度	令和2年度	3年度	4年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	0	0	0	0
		補正予算(b)	<333,030>	<355,962>	<362,766>	<385,138>
		繰越し等(c)		0	0	0
		合計(a+b+c)		Δ<1,753>	<31,667>	
執行額(百万円)		0	0	0		
		<328,124>	<377,206>			

※ 下段<>外書きは、複数の政策にまたがる予算及び複数の政策にまたがる整理できる予算であり、総額の「内数」で掲記している。
 ※ 令和2年度に現政策体系に応じた予算の組み替えを実施済であるため、平成31年度については予算額のみ記載している。

施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	中期防衛力整備計画(平成31年度～平成35年度) Ⅲ-6-(1)訓練・演習
------------------------------	--

測定指標	1. 関係機関や民間部門とも連携し、より実践的な訓練・演習を体系的かつ計画的に実施		
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成
	【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 平成31年度から令和3年度までにおいて、国内において実施した統合訓練・演習と日米共同訓練の主な実績は以下のとおり。 (統合幕僚監部) ●日米共同統合演習(実動演習)(キーン・ソード)(令和2年10月～11月)において、武力攻撃事態等における自衛隊の運用要領及び日米共同対処要領を演練した。 ●災害対処能力の向上を図るため、自衛隊統合防災演習(令和元年5月及び令和3年3月)及び日米共同統合防災訓練(令和2年2月及び令和3年2月)を実施した。 ●自衛隊統合演習(実動演習)(令和元年11月及び令和3年11月)において、防衛、警備に係る自衛隊の統合運用について演練した。 ●在外邦人等保護措置訓練(令和3年12月)において、派遣統合任務部隊の現地における一連の活動及び自衛隊と関係機関との連携要領を演練した。 ●日米共同統合演習(指揮所演習)(キーン・エッジ)(令和2年1月及び令和4年1月～2月)において、我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練した。 ●国民保護に係る関係機関との情報共有要領及び調整要領の習熟を図るとともに、自衛隊の対処能力を向上させ、統合運用に関する部隊行動を習熟させるため、統合国民保護訓練を実施した。 (陸上自衛隊) ●国内における米海兵隊との実動訓練(フォレストライト)(令和元年12月、令和2年1月及び令和2年12月)及び(ノーザンヴァイパー)(令和2年1月～2月)を計画的に実施するとともに、同訓練においては沖縄の負担軽減に資するオスプレイ等の訓練移転を実施した。 ●米陸軍とそれぞれの指揮系統に従い、共同作戦を通じ、相互連携要領を実行動により演練し、共同対処能力の向上を図る実動訓練を国内における米陸軍との実動訓練(オリेंट・シールド)(令和元年8月及び令和3年6月)にて実施した。 ●国内における米海兵隊との実動訓練(レゾリュート・ドラゴン21)(令和3年12月)を計画的に実施するとともに、同訓練においては沖縄の負担軽減に資するオスプレイ等の訓練移転を実施した。 ●陸上自衛隊は、日米共同方面隊指揮所演習(YS76、77、79及び81)(令和元年7月、令和元年12月、令和2年12月及び令和3年12月)を実施し、陸上自衛隊及び米陸上部隊がそれぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における方面隊の指揮幕僚活動を演練した。 ●YS77においては、本演習に併せて、関係機関の参加を得た国民保護についての訓練も実施した。 ●第31海兵機動展開隊との共同訓練(令和2年1月、令和3年1月及び令和4年3月)を計画的に実施するとともに、令和3年の訓練においては沖縄の負担軽減に資するオスプレイ等の訓練移転を実施した。	国民保護を含め、各種事態のシミュレーション、自衛隊の統合訓練・演習や日米等の共同訓練・演習を効果的・計画的に実施	③

測定指標	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度においては、米軍や民間の輸送力も活用して作戦の準備段階における各種部隊の動きを演練・検証し、各種事態に対処するための運用の実効性の向上を図る「陸上自衛隊演習」を実施した。 (海上自衛隊・航空自衛隊) ●海上自衛隊及び航空自衛隊は、米空母や米戦闘機・爆撃機と共に、複数回にわたり目に見える形で共同訓練や編隊航法訓練を実施した。 ●海上自衛隊は、任務遂行能力の向上を図るため、海上自衛隊演習として、図上演習(令和元年11月、令和2年8月～9月及び10月並びに令和3年9月)と実動演習(令和元年11月及び令和3年11月)を実施した。 ●海上自衛隊は、機雷戦能力の向上を図るため、硫黄島(令和元年6月)、日向灘(令和元年11月、令和2年11月及び令和3年11月)、陸奥湾(令和元年7月、令和2年7月及び令和3年7月)及び伊勢湾(令和2年2月、令和3年2月及び令和4年2月)において、掃海特別訓練(日米共同訓練)を実施した。 	(続き)国民保護を含め、各種事態のシミュレーション、自衛隊の統合訓練・演習や日米等の共同訓練・演習を効果的・計画的に実施	③	
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成	
	【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●陸上自衛隊は、警察との共同訓練(実働及び図上訓練)を平成31年度に32回、令和2年度に22回、令和3年度は9回実施した。 ●海上自衛隊は、海上保安庁との不審船対処に係る共同訓練を平成31年度に1回、令和2年度に1回、令和3年度に4回を実施した。 ●災害対処能力の向上を図るため、自衛隊統合防災演習(令和3年5月)を実施した。	関係機関との連携を強化	③	
	2. 良好な訓練環境の確保			
	施策の進捗状況(実績)	目標	達成	
【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●良好な訓練環境を創出すべく、陸上、海上及び航空自衛隊の現状の訓練における制限事項等の課題を整理し、改善の方向性について検討した。 ●「国内における米海兵隊との実動訓練(ノーザンヴァイパー)」においては、北海道の良好な訓練基盤を活用し諸職種協同の訓練及び実弾射撃を実施した。 ●令和2年度及び令和3年度においては、北海道の良好な訓練環境を最大限に活用するため「北海道訓練センター」において普通科連隊等に戦車部隊及び野戦特科部隊を含め実動対抗演習を実施した。	国内の演習場等の整備・活用を促進し、効果的な訓練・演習を実施	③		
施策の進捗状況(実績)	目標	達成		
【平成31年度から令和3年度までの主な実績】 ●平成31年度及び令和3年度においては、米国の広大な訓練環境を活用し、陸上自衛隊及び航空自衛隊の高射部隊による年次射撃訓練を実施した。 ●平成31年度、令和2年度及び令和3年度においては、水陸両用作戦に係る能力向上のため、米国の良好な訓練環境を活用して、上陸から上陸後の戦闘に至る一連の行動を演練する「米国における米海兵隊との実動訓練(アイアンフィスト)」を実施した。 ●平成31年度及び令和3年度においてはオーストラリアの広大な訓練施設を活用し、水陸両用作戦に係る演習を行う「豪州における米軍との実動訓練(タリスマン・セイバー)」を実施した。 ●米国の広大な訓練環境を活用し、航空自衛隊においては平成31年度、令和2年度及び令和3年度にグアム島を拠点に「コーブノース」を実施し、日米豪3か国で実弾を用いた空対地射撃爆撃訓練等を実施した。 ●平成31年度、令和2年度及び令和3年度においては、日米豪の陸軍種がオーストラリアの広大な訓練環境を活用し陸上自衛隊の戦術技量の向上及び米豪軍との連携を強化を図る「豪州における米豪軍との実動訓練(サザン・ジャッカル)」を実施した ●平成31年度及び令和3年度においては、米空軍の実施する演習(レッド・フラッグ・アラスカ)に参加し、米国の広大な訓練環境を活用して、防空戦闘訓練等を実施した。	国外の良好な訓練環境の活用を促進	③		

評価結果	(各行政機関共通区分) ③相当程度進展あり 目標達成度合いの測定結果 (判断根拠) <測定指標1> ●国民保護を含め、各種事態のシミュレーション、自衛隊の統合訓練・演習や日米等の共同訓練・演習を効果的・計画的に実施として、自衛隊統合演習(実働)演習では、防衛、警備に係る自衛隊の統合運用について、また、日米共同統合演習(指揮所演習)では、我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用を演練する等、目標に向かって着実に進展している。 <測定指標2> ●国内の演習場等の整備・活用を促進し、効果的な訓練・演習を実施し、各自衛隊の訓練における制限事項等の課題を整理し、改善の方向性を検討する等、目標に向かって着実に進展している。 以上のことから、相当程度進展ありと判断した。
	施策の分析 <測定指標1> ●目標に対して、以下の取組により施策の進捗に寄与 ※()書きは目標 (国民保護を含め、各種事態のシミュレーション、自衛隊の統合訓練・演習や日米等の共同訓練・演習を効果的・計画的に実施) ・自衛隊統合演習(実働)演習における防衛及び警備に係る自衛隊の統合運用の演練並びに日米共同統合演習(指揮所演習)における我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用の演練 (関係機関との連携を強化) ・陸上自衛隊における警察との共同訓練(実働及び図上訓練)及び海上自衛隊における海上保安庁との不審船対処に係る共同訓練の実施

評価結果	施策の分析	<p><測定指標2></p> <p>●目標に対して、以下の取組により施策の進捗に寄与 ※()書きは目標 (国内の演習場等の整備・活用を促進し、効果的な訓練・演習を実施) ・各自衛隊の訓練における制限事項等の課題の整理及び改善の方向性の検討 (国外の良好な訓練環境の活用を促進) ・米国やオーストラリアの広大な訓練環境を活用した陸上及び航空自衛隊の高射部隊による年次射撃訓練の実施並びにコープ・ノース等米軍等との実動訓練の実施</p>
	次期目標等への反映の方向性	<p>①各種事態発生時に効果的に対処し、抑止力の実効性を高めるため、演習場等周辺の環境を十分把握し、安全確保に万全を期しつつ、自衛隊の統合訓練・演習や日米の共同訓練・演習を計画的かつ目に見える形で実施するとともに、これらの訓練・演習の教訓等を踏まえ、事態に対処するための各種計画を不断に検証し、見直しを実施</p> <p>②各種事態に国として一体的に対処し得るよう、警察、消防、海上保安庁等の関係機関との連携を強化</p> <p>③国民保護を含め、自衛隊の統合訓練・演習や日米間での共同訓練・演習の機会を、自衛隊の実運用のための計画等の検討・検証のみならず、総合的な課題の検討・検証の場としても積極的に活用 各種事態に対処するため、自衛隊統合防災演習、日米共同統合演習等、各自衛隊は計画的に訓練・演習の実施、また、国として一体的に対処するため、警察及び海上保安庁との共同訓練等、引き続き、関係機関、地方公共団体等と連携し、実践的で効果的かつ計画的な訓練・演習に取り組んでいく。</p> <p>④国内の演習場等の整備・活用を促進し、効果的な訓練・演習を実施。併せて国外の良好な訓練環境の活用を促進 北海道の良好な訓練環境を活用した米海兵隊との実働訓練、また、米国やオーストラリアの広大な訓練施設を活用した各種訓練を実施し、引き続き、国内外の良好な訓練環境の整備・活用の促進に取り組んでいく。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	施策は順調に進展しており、特に意見なし。
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<input type="radio"/> 防衛省ホームページ <input type="radio"/> 防衛白書(令和元年～3年) <input type="radio"/> 我が国の防衛と予算(平成31年～令和3年)

担当部局名	防衛政策局、整備計画局及び防衛装備庁	政策評価実施時期	令和4年6月
-------	--------------------	----------	--------

※ 「測定指標の達成欄」及び「評価結果」の「(各行政機関共通区分)欄」については、達成状況を以下の5段階区分の数字を記入。

- ①目標超過達成、②目標達成、③相当程度進展あり、④進展が大きくない、⑤目標に向かっていない